



令和2年度 「学ぶ力」の向上につながる 学校や市町の実践事例



令和3年3月
滋賀県教育委員会事務局
幼小中教育課

「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」の概要

目 標

「読み解く力」*の育成に重点をおいて取り組むことにより、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高める。

グローバル化や情報化が一層進展するなど、社会が大きく変化するこれからの時代に、柔軟に対応できる力が必要です。

子どもたちの「学ぶ力」を高めるためには、一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、文章や情報を正確に読み解き理解する力が大変重要となります。また、人との関係において相手の言葉やしぐさ、表情などから、相手の意図や思いを読み解き理解するなどの力もますます重要となっています。

こうしたことから、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」は、「読み解く力」の育成に重点をおいた、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高めることを目指すプランとしました。

また、このような取組は、子どもたちの「生きる力」の育成につながるものと考えています。

*「読み解く力」には、主に文章や図、グラフから読み解き理解する力と、主に他者とのやりとりから読み解き理解する力の2つの側面があるものと捉えています。

学校園、家庭・地域、教育委員会が目的や取組等を共有した
県全体が一体となった取組へ

◆「読み解く力」の育成に重点をおいた**3つの視点**からの取組

視点1 学びを実感できる授業づくり

子ども一人ひとりの学力や学習の状況を把握し、その状況に応じて学習内容が定着するよう指導や支援を行うことにより、すべての子どもが「わかった」「できた」と実感できる授業づくりの取組を推進します。

視点2 学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

子どもたちが、思いやりをもって関わり合い、互いに高め合える、学びに向かう集団づくりを通して、自分の考えや思いなどを、安心して表現できる人間関係を築き、その中で豊かな人間性を育成します。

視点3 子どものために一丸となって取り組む学校づくり

全ての教員が、各校における学ぶ力向上の具体的な取組を共有し、学校全体で組織的に実践する取組を推進します。

◇ はじめに

本冊子は、子どもたちの「学ぶ力」の向上に向けて、「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」の3つの視点において効果を上げている学校や市町の実践事例を紹介しています。

県内各地域・学校の状況に応じて本冊子を参考にしながら、各学校の「学ぶ力向上策」の改善等に活用してください。

◇ 目次

視点1

- ① 「明日からの全員の授業に活かす校内研究」の充実と授業改善
愛荘町立秦荘東小学校 …… 2
- ② ICTを活用した「わくわくする授業」づくり
守山市立守山南中学校 …… 4

視点2

- ③ 自主的・実践的な力(態度)を育む価値ある行事
多賀町立大滝小学校 …… 6
- ④ 生徒会活動と関連させて進める道德教育
草津市立新堂中学校 …… 8
- ⑤ 「仲間力」を生かした話し合い活動の充実
栗東市立栗東中学校 ……10

視点3

- ⑥ 学校と地域が一体化した教育の推進
日野町立桜谷小学校 ……12
- ⑦ 主体的に研修を企画・運営するOJTの推進
大津市立瀬田南小学校 ……14
- ⑧ 小学校4・5・6年生での教科担任制の導入
栗東市立大宝小学校 ……16
- ⑨ 12年間の学びを見通した幼小中一貫教育の取組
野洲市立中主中学校(中主小学校・中主幼稚園) ……18
- ⑩ 授業改善と家庭学習を両輪とした校内研究
甲良町立甲良中学校 ……20

市町の
取組

- ⑪ 「育みたい力」を明確にし、市で一体となって具体的に取組む授業改善
長浜市 ……22
- ⑫ PDCAサイクルを活用した市の学力向上マネジメント
草津市 ……23

視点1

学びを実感できる 授業づくり

視点2

学ぶ意欲を引き出す 学習集団づくり

視点3

子どものために一丸となって取り組む
学校づくり

「明日からの全員の授業に活かす校内研究」の充実と授業改善

～必要な情報を確かに取り出す力の育成をめざして～



子どもたちの主体的で対話的な学びの実現をめざした校内研究に組織的に取り組んでいます。

「自ら考え、ともに学び合う子ども」を育てるため、「全教員・全学年」で「読み解く力」の育成に重点をおいた授業改善を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 「読み解く力」の共通理解と授業改善

子どもが学ぶ視点で「読み解く力」を理解する

- ・校内研修会で、「まわし読み新聞」を実施し、その時の思考を「読み解く力」の2つの側面、3つのプロセスに照らし合わせて、「『読み解く力』を発揮する」とはどのようなことなのかを教員自身が体感し、共通理解する。

「読み解く力」について、一方的な説明だけでなく、協議や演習を交えることで全員の理解が深まり、新たな発見があります。



ポイント2 授業研究会の「振り返りシート」の活用と授業改善

「振り返り」を蓄積し、明日からの授業改善に活かす

- ・校内研究会後、「読み解く力振り返りシート」を、Myクリアポケットに入れて研究主任に提出する。
- ・「振り返り」から見えてくる成果や課題を明日からの全員の授業改善に活かしていく。

○学校の紹介

	愛荘町立秦荘東小学校
学級数	15学級
児童数	282名



【校内研究のテーマ】

自ら考え、ともに学び合う子どもの育成

～必要な情報を確かに取り出す力の育成をめざして～

「読み解く力」の育成に重点をおき、指導方法の充実を図り、一人ひとりの「学ぶ力」の向上をめざして研究主題に迫る。

・研究の内容

「主体的な学びを支える学習展開と言語活動の充実」、「関わり合いを位置付けた学習活動」を充実させながら、学ぶ楽しさや分かる喜びが味わえるように授業を工夫し、子どもたちの主体的で対話的な学びを目指して取り組む。

学校教育目標

命・人権を大切にし、
豊かな心をもち、
学ぶ力を身につけた、
たくましい子どもの育成

ポイント1

「読み解く力」の共通理解と授業改善

○「読み解く力」を発揮する「まわし読み新聞」研修

この活動を通して、「子どもたちが『読み解く力』を発揮する」とはどういうことなのかを体感し、「読み解く力」についての共通理解を図ることができました。また、授業の中で「読み解く力」を発揮している子どもの姿について、具体的なイメージをもつことができました。

「まわし読み新聞」とは数種類の新聞をグループで「まわし読み」します。自分がおもしろいと思った記事を切り取り(3枚程度)、なぜ選んだかをグループ内で説明したり、その記事をもとに話し合ったりします。そして、盛り上がった記事を集めて1枚の壁新聞を作っていくものです。

発見・蓄積

記事を選んだ理由を明確にしなが、やりとりを通して、相手の思いや意図を十分に理解します。

分析・整理

やりとりを通して、情報を比較しながらレイアウトを考え、新聞を仕上げます。

再構築

グループのみんなの思いや考えを踏まえ、自分の考えを確かなものにして、発信します。



自分の考えをはっきりと言語化しながら、一方的に伝えるだけで終わらない交流の時間を仕組んでいきたいと思った。

子どもたちの姿を想像すると、紹介の時に一番つまずくだろうと思い、紹介する時の順序を示すのはとても大事な手立てだと思いました。実際に体験することで、つまずきがよくなりました。

ポイント2

授業研究会の「振り返りシート」の活用と授業改善

○ 授業研究会の振り返りの蓄積を授業改善に活かす



研究会での各グループの「まとめ」が、「明日からの授業改善」の視点を明確にします。

振り返りがただの感想にならないように、授業のキーワードを入れるなど、教員全体の認識としてしておくようにする。
「振り返りシート」より

研究会後に下記の視点で振り返りを行い、授業改善に活かしています。

- ☆ これまでの研修・研究会以降に取り組んだこととその成果と課題
- ☆ 本日の授業研究会で学んだこと
- ☆ ① 今後の実践で取り組もうと考えたこと
- ② 汎教科的な視点で他教科でも取り組もうと思った視点
- ③ 全校で取り組んでいきたいと考えたこと

ICTを活用した「わくわくする授業」づくり

～主体的に学び、学びを実感できる授業をめざして～



目的を明確にした具体的な活用について研究し、日常的に活用できるように取り組んでいます。

校内研究として「主体的に学び、学びを実感できる授業をめざして」をテーマに、ICTを積極的に活用した授業改善を進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1

ICTを活用した主体的・対話的な学習

イメージをもち、考えを深める場面でのICTの活用

- ・目的に応じてICTを活用することで、学習の質の向上を図る。
- ・一人ひとりがタブレットを活用することで、自分の考えを深めるとともに、他者との考えの共有化を図る。

ICTを有効に活用することで、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を実現でき、生徒の学習活動の一層の充実を図ることができます。



ポイント2

効果的な活用についてのこまめな検証・改善

主体的に学び、学びを実感できる授業づくりに向けた検証・改善

- ・校内の教員をOJTグループ(7グループ)に分け、授業を参観し合い、ICTの活用について、成果と課題をこまめに検証し、改善する。
- ・3週間に一度を目安に全体での報告会を実施し、成果、課題、改善点について職員間で情報を共有する。

〇学校の紹介

	守山市立守山南中学校
学級数	36学級
生徒数	1039名

【校内研究のテーマ】

主体的に学び、学びを実感できる授業をめざして

- ・「わくわくする授業」を創造し、主体的な学びの力を引き出すことをめざしている。また、あらゆる活動において、生徒指導の3機能を生かした取組を推進している。
- ・校内研究推進委員会を核としてOJT推進組織を有機的につなぎ、各教科主任を中心とした教科の組織に加え、中堅教員をグループリーダーとするOJTグループを7グループ構成し、教員相互の授業参観と関連する協議を継続的に行うことで、組織的に推進している。



●学校教育目標

心豊かでたくましく生き抜く人を育てる
～文武両道の精神を基盤とした学校教育の推進～

●めざす生徒像

『自分』を大切にする心を持つ(自立の精神)

- ・思いやりの心と協力する態度を持つ生徒
- ・主体的に学び、自己指導力を有する生徒
- ・郷土を愛し、地域社会に貢献する生徒



○ ICTを活用して考える時間を確保する

【第1学年理科「物質のすがたとその変化」】

実験と並行して結果を入力することで、データの処理の時間短縮を図る。また、実験とグラフの読み取りとを効果的につなぎ、生徒の思考を促す。

これまでとの違いは？
今回の特徴は？



実験結果をもとに、学級全体で話し合おう。



温度変化の記録を各班のタブレットで入力する。

結果を入力しながら、グラフが表示されると変化がわかりやすい！



なるほど！
これまでのグラフとは、温度の上がるようすが違うのか。



視覚化
共有化

作成したグラフを、教員のタブレットに送信し、共有した上で話し合う。

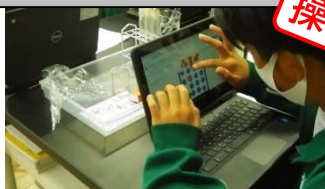
○ ICTを活用して生徒自身が説明する

沸点の違いによって、分離する方法を蒸留という。では、どうしてエタノールを多く含んだ液体が先に取り出せたのだろう？



粒子のモデルを使って説明してみましょう！

タブレットの画面上で、ワイン中のエタノールと水の粒子のモデルを動かしながら説明する。



操作化



エタノールの沸点は78℃、水は100℃で沸騰するから、先にエタノールが沸騰するはずだ！

ワインは水とエタノールなどの混合物と考えられるね。



このモデルのように、ワインの中から、水より沸点の低いエタノールのほうが先に高い割合で取り出すことができたんだね。

効果的な活用についてのこまめな検証・改善

職員同士が授業参観し合い、ICTの活用について授業改善の成果と課題をこまめに検証し、改善する。

各教科で学習指導の質を高めていきましょう！



各グループの事例紹介



実践

議論を通じて見いだしたポイントを生かした実践



生徒の課題となる力に着目し、その課題を克服するための学習活動について議論する。

各教科主任を中心とした組織だけでなく、中堅教員をグループリーダーとして、課題のテーマ設定・授業実践・参観・話し合いを、年間を通して2・3週間のサイクルで行い、研究を深める。

実践事例をもとに、情報を共有し、検証・改善を行う。

自主的・実践的な力(態度)を育む価値ある行事 ～「こなす行事」から「やりとげる行事」へ～



**主体的に活動する機会を意図的に設け、
年間の行事を通して力を育む取組を行っています。**

高学年を中心に縦割り活動として、異学年との交流の機会を設けて、年間を通じた継続的な活動を実施しています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 主体的に活動する機会を意図的に設ける

自発的・自治的な実践をめざす児童会活動

- ・委員会活動や児童集会等で主体性を育む。
- ・リーダー会等を通じて、高学年にリーダーとしての自覚と責任をもたせる。

日常的な縦割り活動や教職員と児童間のコミュニケーションが行事のときにも生かされ、児童の主体性にもつながっていくと考えています。

全校で取り組む日常的な異学年交流

- ・全校で取り組む縦割り活動を通して、日常的な異学年交流を進める。



ポイント2 教職員と児童が一体感をもって取り組む

- ・教職員と児童が日ごろからの円滑なコミュニケーションを心がけ、ともに、行事1つ1つにこだわりをもって内容等を吟味する。

○学校の紹介

	多賀町立大滝小学校
学級数	6学級
児童数	51名

【校内研究のテーマ】

一人ひとりが主体的に取り組み、豊かな心で自信をもって自己表現ができる子どもの育成

- 低学年 自分の思いや考えを交流し合い、自分と相手の考え方の違いに気づく子ども
- 中学年 自分の思いや考えを交流し合う中で、互いの感じ方や考え方の違いやよさに気づき、自分の考えを広げる子ども
- 高学年 共通の課題について学び合う中で、互いの考えの共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを高めたり深めたりする子ども



【学校教育目標】

「やりきる やりぬく やりとげる」を通じて
知・徳・体の調和のとれた児童の育成
～やさしくて、たくましい、大滝っ子をめざして～

◆合言葉

「やりきる やりぬく やりとげる」

○ リーダーとしての自覚と責任

児童会活動における、委員会活動や児童集会等を通じて主体性を育むため、高学年を中心に計画・運営に携わらせて、リーダーとしての自覚と責任をもたせるようにします。

1年生を迎える会、色開き(縦割り班)、全校ウォークラリー、運動会(色別アピールタイム・全校児童会レース)等の児童会活動に向けて、事前にリーダー会を開き、高学年リーダーが計画・運営等を担当します。



○ 高学年がリーダーとして活躍

児童集会等の司会進行や運営等で高学年が活躍できる場を設定します。

○ 全校で取り組む縦割り活動

色別、班別の行動を通じて、仲間とのつながりをより深いものとし、高学年に縦割り班の指導をする中で、リーダーとしての自信を高めます。

また、日常的縦割り活動として月1回、昼休みに縦割り遊びの活動を実施することにより異学年集団を通しての居場所づくりにつなげるとともに、低・中学年は、集団生活を学び、高学年は、リーダーとしての資質向上をめざします。



P



内容・テーマの話合い

○ とともに進める PDCAサイクル

教職員と児童が円滑なコミュニケーションを心がけ、全ての行事において、ともにこだわりをもって吟味し、一体感をもって取り組んでいます。

行事後は、子どもたちがしっかり活動を振り返り、次につなげます。また、教員は、子どもの姿にもとづいて、その日のうちに検証、改善を図ります。



実施

D

A



次につなげる提案



教職員とともに
振り返り

C

生徒会活動と関連させて進める道徳教育

～生徒の思いが響き合う学習集団づくり～



生徒による道徳劇を教材とした道徳科の授業を行うことで、学ぶ意欲を高め、豊かな人間性を育みます。

毎年、「いじめ」や「不登校」、「命の尊さ」等をテーマにした道徳劇を、生徒会執行部の生徒が演じています。上演後は、その道徳劇を教材とした授業を行い、人間としての生き方についての考えを深めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1

生徒の思いを大切にした道徳劇の取組

仲間とつくり上げる道徳劇に向けて

- ・思いを伝えあう「生徒総会」
- ・思いを練りあう「シナリオ作り」
- ・思いを生かす「配役オーディション」
- ・思いを磨きあげる「練習」

生徒会が中心となって、よりよい学校生活を築くために諸課題を見だし、これを自主的に取り上げ、協力して解決していく自発的、自治的な取組となっています。

ポイント2

道徳劇を教材とした道徳科の授業

道徳劇から学ぶ道徳の授業

- ・思いを形にした「道徳劇の上演」
- ・思いを語りあう「道徳科の授業」

悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えることができる教材になっています。

○学校の紹介

	草津市立新堂中学校
学級数	15学級
生徒数	374名

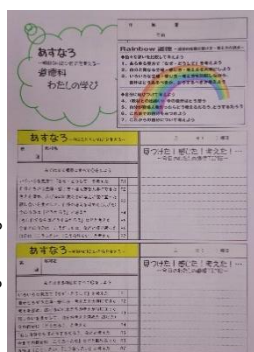
【校内研究のテーマ】

仲間とともに考え・気づき・行動する力を育てる
～生徒の心に響く道徳教育の創造～

- (1)生徒が主体的に考え、対話する道徳の授業の推進
- 「Rainbow 道徳」を活用した授業づくり
 - ・道徳科の学び方や考え方の視点を、教師も生徒ももつ。
 - ・「あすなろ」を使い、生徒自身が視点をもって道徳科の学びを毎時間・毎学期振り返る。
 - ・道徳科の授業づくりや振り返りのために「教師用チェックポイントシート」を活用する。

- (2)全教育活動を通じた道徳教育の推進

- 校内掲示の充実
- 道徳教育全体計画・別様を見直し



「あすなろ」

教育目標		
自主的精神にみち、心豊かでたくましい人間の育成		
自主・独立	敬愛・連帯	剛健・不屈

めざす生徒像

- ・自ら学び、自ら考え、前向きに行動できる生徒
- ・人の心を大切に、共につながり、命輝かす生徒
- ・大志をいだき、心身を鍛え、未来を拓く生徒



令和2年度 草津市教育委員会指定
『草津市道徳教育の授業力向上事業』

ポイント1

生徒の思いを大切にした道德劇の取組

○ 新体制での生徒会執行部が始動

「新堂中の伝統である『道德劇』に出演して、思いを伝えたい」という思いをもって生徒会執行部に入る生徒もいます。



思いを伝えあう「生徒総会」

- ・新執行部の紹介
- ・活動計画の説明
- ・質疑、応答
- ・生徒会スローガンの発表

私たち、新堂中学校の
今年度のキーワードは

高めあい
支えあえる仲間
ともに学びともに考動！

生徒と教職員が一つの方向に向かって進むためのキーワードも決まりました。

○ シナリオ作り・配役オーディション

思いを練りあう「シナリオ作り」

生徒会担当教師が『いじめ-もう涙はいらない- 武内昌美(2009) 小学館』を元に作ったシナリオを使って、生徒たちと読み合わせを行った。そして生徒の思いを聞きながら、シナリオに書き加えていった。

思いを生かす「配役オーディション」

作品のイメージを大切にしながら、生徒の個性を生かせる配役を自分たちで考えた。舞台上の配役だけでなく、裏方の仕事についても、生徒たち同士で話し合って役割分担を決めた。

いじめられている人だけでなく、いじめている人や傍観している人の気持ちも伝わったと思う。

どんな理由があっても、「いじめ」は許されることではないということをわかってほしい。

少しの勇気で誰かを助けられることができるということに気づいてほしい。

○ 本番に向けた練習

思いを磨きあげる「練習」

見ている人に伝えるために、セリフを覚えるだけでなく、登場人物の気持ちを考え、理解して演じることができるよう、練習を繰り返した。



立場の違う3人が「いじめ」から目をそむけず、自分から変わろうとしたところが印象に残っている。

ポイント2

道德劇を教材とした道德科の授業

○ 「それぞれの明日」～小さな勇気で、大きな未来へ～上演

演じたことで、一人ひとりの見えない思いに気づき、学校が誰にとっても心地よい場になるようにしたいと思うようになった。

思いを形にした「道德劇の上演」

昨年までは、体育館の全校生徒の前で演じていたが、今年度は無観客の体育館で演じ、その様子を撮影した。



○ 道德劇を教材とした道德科の授業

思いを語りあう「道德科の授業」

【本時のねらい】

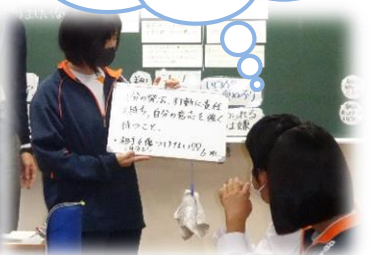
登場人物3人の心の変化を通して、自分と向き合い、弱さや醜さ乗り越えようとすることは自分の人生をよりよく生きることにつながることを理解し、自分自身に恥じない生き方をしようとする心情を育む。

○ グループでの話し合いの場を設け、よりよく生きることについて、多面的・多角的に考える。

○ 誰もがもつ人間の弱さ、醜さについての理解を自分自身との関わりの中で深める。

自分と違う意見をもった人とか、違う立場の人の考えを聞いて、自分の考えを深めることができた。

友だちを大切にしたり、相手の気持ちを考えたりして、クラスみんなのために実行できるようにになりたい。



視点2

「仲間力」を生かした話し合い活動の充実

～将来の生き方を拓く資質・能力の育成をめざして～



育成を目指す資質・能力を明確にし、その実現に向け特別活動を窓口全校で取組を進めています。

話し合い活動の充実により、主体的に課題解決に取り組む中で自治的な能力を育成します。また、生徒同士のつながりを深め、自己肯定感の向上をめざします。

活用したい効果的な取組

ポイント1 話し合い活動の充実に向けた手立ての工夫

学級活動における話し合い活動の具現化に向けた取組

- ・話し合い活動の流れを整理し具体的に示す、全校共通の板書見出し等を作成するなど、全学級で取り組めるようにする。

より質の高い話し合い活動に向けた手立ての工夫

- ・多様な意見を合意形成につなげるための手立て、本音で話し合うための手立てを考え、それを活用して話し合いの質的向上をめざす。

ポイント2 特別活動と各教科の話し合い活動の往還

各教科の特質に応じた話し合い活動の充実

- ・特別活動における話し合い活動と各教科の学習とをどのように関わらせ、生徒に確かな力をつけるのかを明らかにする。

学級での話し合い活動の充実をめざし、全校で取り組みました。どの学級でも、さらにはどの教科でも取組が進むよう、校内研究推進部から積極的に情報を発信しました。



○学校の紹介

	栗東市立栗東中学校
学級数	27学級
生徒数	738名

【校内研究のテーマ】

将来の生き方を拓く特別活動の在り方 ～仲間力を生かした話し合い活動の充実～

「生徒同士の横のつながりを強くしたい」という思いから、特別活動における話し合い活動の充実に向けた研究に取り組んだ。

さらに、特別活動での学びを各教科で生かす、各教科での学びを特別活動で生かす等、教科等横断の視点をもって取り組むことで、より確かな資質・能力の育成をめざした。

※国立教育政策研究所 教育課程研究指定事業(特別活動) 指定校(R1～R2)



【学校教育目標】

心豊かでたくましく生きる力をつける

◆学校スローガン

「愛し愛される栗中目指して」

◆目指す生徒像

仲間力でつながる

- ・自他共に尊重し合える子ども
- ・深く考え自分の思いを表現できる子ども
- ・自立(自律)心を鍛え、将来を切り拓くことができる子ども

話し合い活動の充実に向けた手立ての工夫

◆学級会カードにどのような意見が書かれているか確認し、司会・書記を担当する生徒と、話し合いのシミュレーションを行う。

大きく分けると、
4種類くらいに整理
できそうだね。

みんなの意見を反映させるためにも、途中で少人数での話し合いの時間をとることも考えておこう。

議題の確認 → 学級担任の話 → 出し合う → 比べ合う → まとめる → 学級担任の話

◆どの学級でも同じように話し合いを進められるよう、板書で活用する見出し等を作成し、全学級へ配付、活用する。

■本校の話合い活動の流れ

事前	課題の発見・確認・シミュレーション
	① 班長会の設定：議題を決める ② 学級会カードへの記入 ③ 班長会の設定：学級会へのイメージをもつ
本時（話し合い活動）	課題解決の方法や目標設定の話し合い・決定 ① 本時で話し合う議題の確認 ② 学級担任の言葉 ③ 議題について各自の意見を <u>出し合う</u> ④ 出た意見を <u>比べ合って</u> 、よりよい意見を見つける ⑤ 課題解決に向けて意見を <u>まとめる</u> ⑥ 振り返りと学級担任からの評価
	実践・確認 ① 決めたことに全員で取り組む ② 取り組みの成果や課題を振り返る ③ 取り組みを改善、工夫する
事後	

『栗中版 話し合い活動の手引き』より

合意形成

果中モデル

合意形成の手法

さんらんば型

いっくつの性質をつくる

タンパリン型

タンパリンの性質をつくる

てんりん型

メリット・デメリットを整理し上げる

パーマクヘン型

整理されたものを位置関係、方向関係に応じてストックしておく。(トラウマエラー)

合意形成の手順

さんらんば型

タンパリン型

てんりん型

パーマクヘン型

決定

決めたことを活動への指針とする

ストック

決定されたものを位置関係、方向関係に応じてストックしておく。(トラウマエラー)

合意形成

果中モデル

『栗中版 話し合い活動の手引き』より

これを参考に話し合いを進めれば、**出し合う**→**比べ合う**→**まとめる**という合意形成までの一連の流れがイメージできるから、司会として話し合いを進めるときに助かります。

栗東中学校が作成した「は、ここで紹介したものほか、話し合い活動を進める際に活用できる資料を多数掲載しています。



特別活動と各教科の話し合い活動の往還

【取組の例】 3年国語科

「話し合って提案理由をまとめよう『課題解決に向けて会議を開く』」

《話し合いのテーマ》コロナ禍で感染予防のためにトイレ清掃をしてくださっているPTAの方々にどのような方法で感謝の気持ちを伝えるか。

話し合いの流れ

1次
感謝の気持ちをどうやって伝えるか提案を考える **個人で**

2次
1人で決断的で説得力の提案を考える **4人グループで**

3次
クラス会議で提案を一つに絞る **クラス全体会議で**

2次 評価のポイント

- 提案を根拠と共に発表が出来たか
- 合意形成をいくつために、提案の共通点が見つけられたか
- メンバーの意見を尊重し、自分の意見やその意見にこだわらずに話がすすめられたか

③ 議題について各自の意見を出し合う

- 議題について事前に考えておいた意見とその理由を発表する。
- 挙手による意見が出にくい場合は、司会者より指名していく。

④ 出た意見を比べ合って、よりよい意見を見つける

- 事前に考えていた意見がある程度出たところで、出た意見を見比べて考え、意見を絞っていく。

※賛成・反対の意見だけでなく、出ている意見に対して質問したり、「共通点や相違点」「実現できる可能性」「議題選定の理由に合っているか」などに着目したり、「メリット・デメリット」に触れたりしながら進めていく。

『栗中版 話し合い活動の手引き』より

↓各グループからの

[illegible]

↑自分の考え

学校と地域が一体化した教育の推進

～「好きです。桜谷」と自信をもって言える子どもの育成をめざして～



有志ボランティアの皆さんとともに、 「ふるさと絆学習」に取り組んでいます。

豊かな自然・文化・歴史を生かした本物体験・感動体験を推進し、地域のよさを実感できる、総合的な学習の時間「ふるさと絆学習」を核とした特色ある教育を、学校と地域が一体となって進めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1

地域の有志ボランティアの協力による
子どもたちの体験活動の充実

感性豊かな子どもの学びを支える

- ・環境整備から体験学習のための準備、総合的な学習の時間における子どもたちへの指導・支援まで、地域の有志ボランティア「HOTけん桜谷隊」(平成23年結成)の協力による、充実した体験活動を実施している。

地域と学校が、子どもの育ちを見守るためのビジョンや育てたい子ども像を共有し、一緒にPDCAを回しながら、協働して取り組んでいます。

ポイント2

地域と学校のwin-winの関係づくり

子どもたちと地域の方の直接のふれ合いを重視する

- ・子どもたちと地域の方との直接のふれ合いを大切にし、地域と学校がともに高め合う関係づくりを進める。
- ・ビジョンや育てたい子ども像を共有し、地域と学校が一体化した教育を推進する。



○学校の紹介

	日野町立桜谷小学校
学級数	8学級
児童数	95名

校内研究のテーマ

友と学び合いながら、
主体的に学び表現する児童の育成
～次に生きる“振り返り”算数を出発点として～

昨年度より、振り返りについての研究を進めている。振り返りが形式的であったり、次以降の学習につながっていなかったりしたため、今年度は、個々の振り返りがつながり合い、今後に生きるものにするには、どのように取り組めばよいのかについて研究を進めている。



【学校教育目標】

一人ひとりが喜びと充実感を味わえる学校
～あたたかい人間関係を通して～

【めざす子ども像】

学ぶ子 やさしい子 健康な子

第51回博報賞受賞

日本文化・ふるさと共創教育部門



ポイント1

地域の有志ボランティアの協力による 子どもたちの体験活動の充実

年間のべ400人の
有志ボランティアの参加

○ 主体的に生きる力の育成につながる、 五感を通した貴重な体験活動の充実

地域の有志ボランティア「HOTけん桜谷隊」による様々な取組により、子どもたちの充実した体験活動を実施しています。実際の体験を通して、新たな発見をしたり学んだりすることで、興味・関心が高まり、主体的な学びや生きる力の育成につながります。

4年生「シイタケ菌打ち体験」

地域の方が裏山整備で伐採されたクヌギ等の原木に、電動ドリルを使いながらシイタケ菌を打ち込みました。地域の方の見事な手つきに興味・関心が高まり、夢中になって取り組みました。

シイタケってこんなふうに栽培するんだな。もっとシイタケについて調べてみよう！



5年生「丁稚ようかん作り」

地域の特産品である丁稚ようかん作りを体験しました。昔の人の思いを地域の方から直接教えていただくことにより、慣れ親しんだ丁稚ようかんが「特別なもの」になりました。

丁稚ようかんの作り方も名前のいわれも初めて知ったよ。

さすが手際がいいなあ。



ポイント2

地域と学校のwin-winの関係づくり

飛沫防止シールドを、6年生と「HOTけん桜谷隊」の皆さんで作製

○ 子どもと地域の方の直接のふれ合いの重視

地域の方々の「学校の役に立つことはうれしい」という気持ちややりがい大切にしています。また、子どもたちの地域への愛着や誇りが生まれるよう、子どもたちと地域の方々の直接のふれ合いを重視することによって、地域と学校とがともに高め合う関係づくりを大切にしています。



○ 感謝の気持ちを伝える取組の実施

日常的な惜しみない支援により、子どもたちの学びを支えてくださっている地域の皆さんを「森のレストラン」に招待したり、手紙や歌を贈ったりするなど、感謝の気持ちを伝える機会を大切にしています。地域の方が喜んでくださるのを感じることが、子どもたちにとって貴重な体験となります。

「手作りマスク」のお礼として、全校児童から手紙を贈呈



○ ビジョンや育てたい子ども像の共有



学校と地域の協働のため、年2回の地域学校協働活動事業の協議会や、「HOTけん桜谷隊」の活動の機会を活用し、地域の方の意見聴取、学校の願いの発信、互いの思いの交流等を行い、目標を共有し、向かうべき方向性を明確化しています。児童の成長を一緒に喜び合い、一緒にPDCAを回しながら進めていくことにより、よりよい活動へとつなげています。

学校を思う地域の方の熱意が、子どもたちのふるさとへの愛着や地域への感謝の気持ち、教職員や保護者の意識の変化にもつながっています。



視点3

主体的に研修を企画・運営するOJTの推進 ～「若手教員の育成」と「同僚性の構築」をねらいとする初任者研修～



OJTグループが、それぞれに責任をもって 校内研修を企画・運営しています。

ステージ研修と組み合わせながら、小グループで指導案検討や、校内研修の運営を行います。また、教員のニーズを大切にして研修を実施したり、研修を動画にして蓄積したりしています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 教員主体の研修計画と研修運営

教員一人ひとりが研修を計画

- ・アンケートでニーズを把握して、研修計画に反映する。
- ・教員が自由に計画して実践する研修を設ける。

OJTグループが独立して研修を運営

- ・若手をリーダーにしたOJTグループが、それぞれ独立して研修を運営する。

ベテランから学びたいという若手のニーズと、ベテランがもっと学ばせたいという姿勢とがマッチするように、コーディネートしていくことが必要であり、それが全教員の資質向上につながると考えています。

ポイント2 研修成果を活用する工夫

研修の成果の蓄積と学びの共有

- ・研修の様子を撮影して蓄積し、他の教員も動画を閲覧して学びを共有できるようにし、次年度以降の研修にも活用する。



○学校の紹介

	大津市立瀬田南小学校
学級数	31学級
児童数	755名



【学校教育目標】

「やさしく、かしこく、たくましく カ一杯生きぬく児童の育成」

人間尊重の精神を基調とし、激しく変化する社会の中で夢と志をもち、心身ともに健康で優しく、賢く、逞しく生き抜こうとする児童の育成をめざす。

【校内研究のテーマ】

子どもの「書けるかも！書きたい！！」を育てる授業づくり

既習内容を活用した授業デザインの中、書く力を高められる場を工夫することで、学びを深める。児童の「できる」を生み出す書く力向上策の確立をめざす。

ポイント1

教員主体の研修計画と研修運営



研究授業

○ 教員一人ひとりが研修を計画

☞ アンケートを実施して教員のニーズに対応

年度初めに、全教員にアンケートを取って研修計画の原案を作成します。また、定期的なアンケートで希望する研修を聞いたり、校内の専門性の高い教員による研修の希望を聞いたりして、ニーズに対応しています。

☞ 若手をリーダーにしたOJTグループがそれぞれ独立して運営

ある程度経験を積んだ若手をグループリーダーにして3～4名程度の小グループを編成し、グループで設定した課題の解決をめざしながら、指導力を高めます。

メンバーが、ステージ研修等で授業公開を行う場合は、グループで計画・運営します。



模擬授業→研究授業→授業研究会
まで、準備から当日の記録や進行などの運営を、全てグループのメンバーで担当します。

☞ 多様な形態での研修運営

3～4名程度の小グループの研修は、意見交換やメンタリングが行いやすい上に、日常的な会議の開催がしやすいよさがあります。

いくつかある小グループが全て集まる「OJTグループ全体研修」、全教員が集まる「職員全体研修」では、学びの共有ができ、他の情報や助言を得ることができます。

少人数での研修は話しやすく、授業もチームで進んでいく感じがしてとてもよかったです。

【教員の声より】



ポイント2

研修成果を活用する工夫

○ 研修成果の蓄積と学びの共有

研修での振り返りから学びや課題を共有し、次の研修計画を改善します。

定期的に、「特に学びとなった研修」や「今後希望する研修」等をメンバーにアンケートを取って、ニーズに対応した今後の方針を検討します。

また、動画クリップを活用して、研修に参加していなかった人も学びを閲覧できるようにします。

▶ 短時間にまとめた動画クリップ



模擬授業



グループ研修



授業研究会

他にも

☞ 校務支援システムによる予定の明示

基本的に45分単位で設定し、行事計画に位置付けます。日常的には、校務支援システム上で予定を示し、全員が把握できるようにします。

☞ 研修場所の工夫

グループ研修は、各教室などを会場にしています。教室掲示や板書から学級経営や授業の足跡が学べます。推進リーダーは、開催について予定通り実施されるか適宜声をかけ、難しい場合は調整します。

今日・明日の予定

12/03（木）

◆年間行事

きぼしんテスト返却・直し3-6年

PTA委員会（1音）9:30～12:00

OJT研修（振り返り）16:00～図書室

視点3

小学校4・5・6年生での教科担任制の導入 ～学ぶ力の向上・児童理解をめざした教育活動の展開～



小学校4・5・6年生で教科担任制を導入し、 学ぶ力の向上と児童理解を組織的に進めています。

各教員の教科の専門性を生かした指導により、質の高い授業の提供に努めています。また、学級の児童を複数の教員でみることにより、多面的・多角的な児童理解を深めています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 教科の専門性を生かした授業づくり

教科担任制の実施を可能にする体制づくり

- ・小単元で持ち時間数を調整する。
- ・授業スタイルや学習規律を統一し、授業改善に取り組む。

教科担任制は、学年間での教師の連携が何より大切です。

ポイント2 複数の教員で深める児童理解

複数の教員がそれぞれの立場から子どもをみる

- ・情報交換する時間を確保し、組織的な児童理解につなげる。



○学校の紹介

	栗東市立大宝小学校
学級数	24学級
児童数	647名



【校内研究のテーマ】

「考え続ける子どもの育成」

～学びを「デザイン」することを通して得られる

「見方や考え方の深まり」の追究～

これからの変化の激しい社会を生き抜くために必要な力は、「問い」を主体的に発見し、他者と協働して解決していく力です。これから先、どのような社会になるかは不透明だからこそ、どんな世の中でも対応できる力、自分で考えて切り拓いていける力が必要になります。そのためには、「考え続ける力」が必要です。

そこで、考え続ける子どもを育成するために「学びのデザイン」を3つの側面

- 子どもが見方や考え方を深めることができる授業づくり【授業をデザイン】
 - 子どもが新たな考えをもったり、表現したりできるような環境づくり【言語環境をデザイン】
 - 子どもが自分で考えたり、判断したりできる機会づくり【生活をデザイン】
- に分類して研究を進めています。

学校教育目標

だれもが いきいき ほんのほの うれしい 小学校

＜夢や希望（目標）を実現する＞

＜楽しい学校・地域や保護者から信頼される学校＞

楽しく勉強する子・心を大切にする子・命とからだを大切にする子

○ 教科担任制の実施を可能にする体制づくり【概要】

- ① 教科担任制が実施できそうな教科を検討する。
(国語、算数、道徳、学級活動、総合的な学習の時間は担任が担当)
- ② 小単元で持ち時間数を調整する。
- ③ 学年全体で指導する場面をつくる。
(運動会や水泳、音楽会は学年全体で指導)

教科によって標準時間数が異なるので、ワンポイントで入ることのできる学習(例:国語「漢字・ことば・文法」等の小単元、図画工作「一制作」等)で時間数を調整しています。



【教科担任制の分担と持ち時間数の調整】

「4年生(4クラス)」

書写(D教諭)	35時間
社会(B教諭)	90時間
理科(A教諭)	105時間
図画工作(E教諭)	60時間
体育(C教諭)	105時間
外国語活動(D教諭)	35時間

※音楽の60時間は、担任が行っている。

A・B・C・D教諭・・・4年生担任
E教諭・・・・・・・教務

「5年生(4クラス)」

書写(H教諭)	35時間
社会(G教諭)	100時間
理科(F教諭)	105時間
音楽(O教諭)	50時間
家庭(I教諭)	60時間
体育(H教諭)	90時間
外国語(専科教員)	70時間

※図画工作の50時間は、担任が行っている。

F・G・H・I教諭・・・5年生担任
O教諭・・・・・・・教務

「6年生(4クラス)」

書写(M教諭)	35時間
社会(K教諭)	105時間
理科(J教諭)	105時間
音楽(L教諭)	50時間
図画工作(L教諭)	50時間
家庭(N教諭)	55時間
体育(M教諭)	90時間
外国語(専科教員)	70時間

J・K・L・M教諭・・・6年生担任
N教諭・・・・・・・教務

○ 方向性を統一した授業改善のポイント

- ・授業スタイルの統一
- ・学習規律の統一
- ・教材研究(授業の検証・改善)
- ・教科の専門性

A 子どもが見方や考え方を深めることができる授業づくり【授業をデザイン】

- ① 教師が話す機会を減らし、子どもが考える時間、学び合う時間を多く設定
- ② 子どもが考えたり、話したりしたくなるような課題の工夫
- ③ 子どもが深めた「見方や考え方」を表出する場の設定

校内研究の「**学びのデザイン**」をどの教科の指導でも共通実践しています。

B 子どもが新たな考えをもったり、表現したりできるような環境づくり【言語環境をデザイン】

- ① 表現するための語彙や知識の獲得
- ② 即興力、表現力の育成
- ③ 聴く力の育成、相手を大事にする環境づくり

C 子どもが自分で考えたり、判断したりできる機会づくり【生活をデザイン】

- ① 自分で考えて取り組める力の育成
- ② 安心した学びの環境づくり、自分の生活をよりよくしていく話し合い
- ③ 創意工夫を生かした活動



- 教科の専門性を生かした授業をどのクラスでもできる。
- 複数のクラスで同じ授業ができるので、検証改善し、より工夫した授業ができる。
- 時間の融通は利かないが、教科が限定されるため、負担は減る。

教科横断的に資質・能力を育てるためにはカリキュラム・マネジメントが必要になってくる。教科の枠を超えて、どのような資質・能力を子どもたちにつけていく必要があるかを議論する必要がある。

【教科担任制に取り組んでいる4年生以上の学級担任の声より(抜粋)】

○ 複数の教員がそれぞれの立場から子どもをみる

- 学年の全教員で子どもをみることになるので、それぞれの立場から情報交換ができる。
- 教科担任制は、児童理解に大変有効であると感じた。
- △ 学級のトラブルや指導をタイムリーに行うことが難しい。

【教科担任制に取り組んでいる4年生以上の学級担任の声より(抜粋)】

児童の様子については、学年で来週の予定を立てる時間(週に1回)に情報交換するとともに、特に気になる児童がいれば、その都度話し合う時間を確保しています。



12年間の学びを見通した幼小中一貫教育の取組 ～【12年間統一教育目標】自ら考え、未来を生きぬく中主っ子の育成～



「3校園の願い」からめざす子ども像を共有し、
知・徳・体を育む教育活動に取り組んでいます。

統一の教育目標に基づいて、「中主っ子」学びのスタンダード、「中主っ子」家庭教育スタンダード等を共通実践し、就学前からの12年間を見通した幼小中一貫教育に取り組んでいます。

活用したい効果的な取組

ポイント1

12年間を見通した、めざす子ども像の共有

家庭や地域、関係機関への教育目標の啓発

- ・幼小中の行事予定やメッセージとともに、一貫教育の構想や地域学校協働活動の構想、各校の教育目標を学区カレンダーにわかりやすく掲載する。
- ・幼小中の各校園で「学び部会」「育ち部会」「キャリア部会」を設置し、連携しながらそれぞれの視点からの取組を進める。

学区カレンダーは、幼小中の保護者だけでなく、地域の方々にも配付し、情報を発信しています。



ポイント2

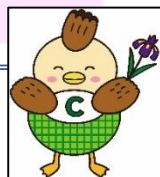
教育目標の実践に向けたOJT研修

「学びのスタンダード」の日常実践と互いに高め合う研修のサイクル

- ・授業力のみならず、人権教育、生徒指導、特別支援教育における課題等に対して個々の教職員の意識や指導力を高めるための実践的な研修を進める。
- ・通信や掲示を工夫して、研修内容を共有し、高め合う。

○学校の紹介

	野洲市立中主中学校
学級数	13学級
生徒数	326名



【中主学区 12年間統一教育目標】

自ら考え、未来を生きぬく中主っ子の育成

【中主中学校 教育目標】

心豊かでたくましい知徳体の調和のとれた生徒の育成

【目指す学校像】

〔12年間統一教育目標〕幼小中の連携および地域連携のもと、社会的自立を目指し、自らで考え、判断し、将来にわたってたくましく生きぬく力の育成

〔中主中学校 教育目標〕校訓「質実剛健」の校風のもと、社会的自立を目指し、心豊かでたくましく生きる生徒の育成

【校内研究のテーマ】

学びを深めるため
自ら学び かかわり合う生徒の育成

○ 家庭や地域、関係機関への教育目標の啓発

「学び合い」のルール
～仲間とともに考えを深めよう～

主体的・対話的で深い学びを追求するために、話し合い活動を積極的に取り入れ、学習を深めよう。

中主っ子「学び合い」5か条

中主小学校	中主中学校
自分で考え、仲間と対話し、学びを深めよう	
1. 問題について、自分で考えてみよう。 2. わからないことは聞いてみよう。 3. 相手の考えを伝えたり聞き取りしよう。 4. 相手の考え方を聞いて、自分の考えと比べよう。 5. 伝えたいことを整理し、わかりやすく説明しよう。	1. 課題と向き合い、自分で考えよう。 2. わからないことは何度も聞いてみよう。 3. 相手の考えを聞き取り、自分の考えを伝えよう。 4. いろいろな考え方に触れ、自分の学びを深めよう。 5. 伝えたいことを整理し、自分の言葉で説明しよう。

学習形態の工夫

学習形態の工夫を行い、小グループでの「学び合い」を充実させ、対話的な学習を促進して、学びを深めます。

「中主っ子」学びのスタンダード
幼小中連携「学び部会」が作成。
小中学校の学びの連携を図り、
学校間、校種間で育まれた力を
生かせるようにしています。



「中主っ子」家庭学習スタンダード
幼小中連携「育ち部会」が作成。
家庭でのよりよい生活と学習習慣を
育むために、幼稚園、小学校
低学年、中学年、高学年、中学校
に分けて手引きを示し、学びをつ
ないでいきます。

幼小中連携

幼小中一貫「教育目標 自ら考え、未来を生きぬく中主っ子の育成」

幼小中連携推進委員会
中学校3年合宿活動
幼小中交流活動

幼児・小学生・中学生が交流し、12年間を見通した「学びのスタンダード」「家庭学習スタンダード」をもとに幼小中で連携して中主っ子を買います。

中主学区学校園 12年間統一教育目標
自ら考え、未来を生きぬく中主っ子の育成

中主幼稚園教育目標	中主小学校教育目標	中主中学校教育目標
心豊かでたくましく 生き生きとした 子どもの育ち めざす子ども像	心豊かでたくましく 実力力のある 中主っ子の育成 めざす子ども像	心豊かでたくましく 知性力の豊潤のとれた 生徒の育成 めざす生徒像
【例】 自らで考え、行動する子ども 【例】 自分にも人にも思いやりをもつ子ども 【例】 元気にあそぶ、遊ぶ子ども	【例】 考える子 【例】 自らで考え、行動する子ども 【例】 自らで考え、行動する子ども 【例】 自らで考え、行動する子ども	【例】 自らで考え、行動する子ども 【例】 自らで考え、行動する子ども 【例】 自らで考え、行動する子ども 【例】 自らで考え、行動する子ども

カレンダー表紙に教育目標を掲載し、
教育活動を写真で紹介しています。

「中主っ子」家庭教育スタンダード

～より良い家庭での生活と学習習慣を育むために～

	幼稚園・保育園	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
家庭生活	☆家庭、地域の一員であることを意識し、その役割を果たすとともに、集団の中で規範意識を身に付けよう。				
	○9時には寝よう。 (1日9～10時間程度の睡眠を確保できる よう寝る時間を決めよう。)	○9時には寝よう。	○9時30分には寝よう。	○10時には寝よう。	○7時間程度の睡眠時間をとり、自分の 生活習慣を確立しよう。
	○食事の準備を知り、自分で食べよう。 ○家族や地域の人のためにあそびしよう。 ○地域の行事に親子で参加しよう。	○好き嫌いせず、バランスのよい食事をしよう。 ○家族、地域の人のためにあそびしよう。 ○地域の行事や活動に積極的に参加しよう。	○早起・早起・早起を心がけ、バランスのよい食事をしよう。 ○時と場合に応じたあそびや活動の楽しさをしよう。 ○地域（子ども会）の行事や活動に参加し、自分の役割を果たそう。	○早起・早起・早起を心がけ、バランスのよい食事をしよう。 ○時と場合に応じたあそびや活動の楽しさをしよう。 ○地域（子ども会）の行事や活動に参加し、自分の役割を果たそう。	○早起・早起・早起を心がけ、バランスのよい食事をしよう。 ○時と場合に応じたあそびや活動の楽しさをしよう。 ○地域（子ども会）の行事や活動に参加し、自分の役割を果たそう。
	○生活習慣を身に付けて、自分でできることは 自分でしよう。 (食事・着脱・排泄の習慣をつけよう) ○簡単なお手伝いに挑戦しよう。	○家族と決めたお手伝いを毎日しよう。	○家族と話し合い、決めたお手伝いを 毎日しよう。	○家族の一員としての役割を自ら考え、自分の できるお手伝いを毎日しよう。	○家族の一員としての役割を自ら考え、自分の できるお手伝いを毎日しよう。
家庭学習	○交通安全ルールを守り、正しい自転車の乗り方 を知ろう。	○交通安全ルールを守り、正しい自転車の乗り方 を知ろう。	○交通安全ルールを守り、正しい自転車の乗り方 を知ろう。	○交通安全ルールを守り、正しい自転車の乗り方 を知ろう。	○交通安全ルールを守り、正しい自転車の乗り方 を知ろう。
	○毎日1冊は家族の人のために読んであげよう。 (絵本を毎日1冊は読んであげよう) ○読まれたこととお家の人の自分言葉で読もう。 (子どもの話をしっかり聞こう)	○毎日読書をせよ。30分程度は 学習しよう。 ○自主学習ノートに取り組みよう。 ○読書をせよ。	○毎日読書をせよ。10分程度は 学習しよう。 ○「家庭学習のしおり」を参考に、 自主学習ノートに取り組みよう。	○毎日読書をせよ。10分程度は 学習しよう。 ○「家庭学習のしおり」を参考に、 自主学習ノートに取り組みよう。	○毎日読書をせよ。10分程度は 学習しよう。 ○「家庭学習のしおり」を参考に、 自主学習ノートに取り組みよう。

☆確かな学力を身につけるために、家庭でより良い学習習慣を確立しよう。

「中主っ子」家庭学習スタンダード(一部)

めざす子ども像へ

○「学びのスタンダード」の日常実践と互いに高め合う研修のサイクル

①「中主っ子学びのスタンダード」に即した日々の実践 ⇒ ② 実践で見られた指導上の課題を
教員間で共有 ⇒ ③ OJT推進委員会で課題に即した研修計画の立案 ⇒ ④ 7年目以上の教員
が担当可能な研修内容を確保 ⇒ ⑤ 毎月の職員会議後にミニ研修を設定、実施 ⇒ ⑥ リフレク
ション ⇒ ①へ



<校内OJT通信>



研修の様子やポイント、感想や振り返り、改善に向けたアドバイスやメッセ
ージをOJT通信に掲載しています。地域学校協働活動通信とともに職員室にも掲
示し、教育目標にある「中主っ子」育成にむけた教員の指導力を高めます。

4月23日(木)
特別支援教育

先生講話～
大切な6、7の2つにふさわしい教育を考える。

4年目若手教員N先生の感想
～個別の指導計画を見直すことで、個別の指導計画が立てられ、成長が見えたと感じました。

OJTに研修会
「特別支援教育」
先生を講師に招き
教員に話を聞かせました。

個別の指導計画の作成
の力を伸ばす。

合理的配慮の取組
の取組を促す。

成長を見守る。保護者
と協力し、子どもが
成長できるように
サポートする。

授業改善と家庭学習を両輪とした校内研究 ～「復習」に重点をおいた、チームで取り組む「継続する力」の育成～



「授業で理解し、家で復習する」というサイクル を大切にした学習を学校全体で実践しています。

「目標に向けて努力し続ける力」を生徒に育むため、授業の「振り返り」を基にした「復習」に学校全体で取り組み、学ぶ力の向上をめざしています。

また、生徒が自分の力で復習に取り組めるよう、授業の目標や学習のポイントを明確にする等、授業改善をすすめています。

活用したい効果的な取組

ポイント1 学校全体で取り組む学習習慣づくり

学級担任・部活動顧問・学年教員のチームによる学びの支援

- ・ 授業、帰りの会での「振り返り」、部活動学習会での「学習内容のまとめ」、家庭での「復習」、学年教員による「提出チェック」をひとつのサイクルとして、全職員で生徒の継続的な学びを支援する。

ポイント2 生徒の自律的な学習を促す「振り返り」

OJT授業づくり部会による「自分で復習できる」授業づくり

全教科等における「振り返り」の充実とそのための授業改善

- ・ 「主体的な学び」につながる授業の目標
- ・ 「対話的な学び」につながる学習活動
- ・ 「深い学び」につながるまとめ

「目標に向けて努力し続ける力」を学校全体で育むため、「復習」に焦点を当てた学ぶ力向上と授業改善に、家庭との連携も図りながら全職員で取り組んでいます。



○学校の紹介

	甲良町立甲良中学校
学級数	7学級
生徒数	146名

【校内研究のテーマ】

進路実現に向けて努力し続ける生徒の育成 ～基礎基本の定着から学習意欲の向上～

<研究内容>

- ・ 「振り返り」による家庭学習の充実とそのための授業改善

<研究方法>

- ・ 各教科「学ぶ力」育成プランの作成
- ・ My授業改善プランの作成、中間検討、成果のまとめ
- ・ 「この先生のいいね！」の実施とまとめ
- ・ 教員、生徒へのアンケート（事前・事後）



学 校 教 育 目 標

人権尊重の精神を基礎とし、知・徳・体の調和のとれた、次世代をたくましく生きる生徒の育成

○ 学級担任・部活動顧問・学年教員のチームによる学びの支援

㊦ 授業での振り返り

振り返りにより「わかったこと・できたこと」を生徒が実感することで、本時の学びが次の学びにつながるよう、全ての授業で目標や学習のポイントを明確にしています。

㊦ 1日の振り返り

帰りの会で、1日の学習内容を「振り返りシート」に記入し、家庭学習や次の日の学習への課題等を明確にします。

㊦ 甲良中LEVEL UP TIME! (部活動学習会)

帰りの会での振り返りを基に、学習のポイントを「復習シート」を活用してまとめます。

㊦ 家庭学習

保護者にも家庭学習の充実について協力をお願いしています。

「復習シート」を活用し、学校での学びを再度振り返りながら、家庭でも学習の続きをします。

㊦ 「復習シート」の提出・チェック

生徒は翌日の朝の会で「復習シート」を提出します。学年教員がチェックし、確認のサインと価値付けや励ましのコメントを返します。

「復習」したことを次の学びに生かす

全教員が目的と効果的な方法を理解して、生徒の支援と指導にあたることで、生徒に「努力し続ける力」を育みます。



○ OJT授業づくり部会による「自分で復習できる」授業づくり



家庭で「復習」をするためには、授業の振り返りで「わかったこと・わからなかったこと」等が明確にならないとね。

振り返りを充実させるためには、「明確な目標」と「それに向けた学習活動」が必要だね。



■ 『振り返り』を充実させるための共通実践

- ・ 授業の目標の明確化 . . . めざす!
- ・ 学習活動の充実 . . . わかる!
- ・ まとめにおける評価 . . . できる!

■ 実践の計画・検証・改善

- ・ 教員が『各教科「学ぶ力」育成プラン』と『My授業改善プラン』を作成することで、課題の把握を行い、それに基づいて中間検討、1年間の成果のまとめを行う。
- ・ 生徒と教員に事前と事後のアンケートを行い、研究の成果と課題を把握し、取組に生かす。

授業内容をノートにメモする生徒が増えてきたね。

単語を復習しているだけで、活用ができていないなあ。



授業のポイントを考えて、学習活動を組み立てられるようになってきた!

授業で示したポイントと生徒がシートに書いた内容が合っていないなあ...

【校内研究での協議より】

生徒の姿を基に、授業改善と家庭学習の両輪で校内研究の取組をすすめています。

「育みたい力」を明確にし、 市で一体となって具体的に取り組む授業改善

1 「未来をになう長浜っ子」の実態把握

- ・全国学力・学習状況調査等を活用し、「未来をになう長浜っ子」の強みや課題を分析し、実態把握をしています。(令和2年度は、問題冊子等を活用し、市独自で調査を実施)
- ・学校訪問等で、課題を共有し、**子どもを主語**にした授業、**子どもが主役**の授業に向けた指導助言をしています。

長浜市

小学校	23校
中学校	10校
義務教育学校	2校

2 「未来をになう長浜っ子」育成プロジェクト事業の取組

未来をになう長浜っ子に育みたい力

未来の社会を創造できる資質・能力

教科等で身に付ける学ぶ力

- 基礎的・基本的な知識・技能を習得し、それらを活用・応用しながら問題を解決する
- 自分の考えをもち、能動的に他者とつながりながら、考えを深めたり、よりよい解決方法を見出したりする

+

学びに向かう力

- | | | |
|---|--|---|
| 自分と向き合う
○ 見通しをもって計画的に行動する
○ 最後まで粘り強く取り組む | 自分を高める
○ 夢や目標をもち、努力する
○ 新たなことや困難なことにも挑戦する | 他者とつながる
○ 他者とコミュニケーションをとり、協調・協働できる
○ 相手のことを考えて行動する |
|---|--|---|

未来の社会を創造できる資質・能力を身に付けた子どもたちを育むには、教科等で身に付ける学ぶ力に加え、学びに向かう力も必要であると考えています。



「未来をになう長浜っ子」育成プロジェクト事業（令和2年度：2年目）

WG1. 「子ども」改革

<テーマ>

誰一人取り残すことのない新しい長浜の学び（子どもを主語・子どもが主役の授業）の実現

WG2. 「教師」改革

<テーマ>

自ら学び続け、切磋琢磨しながら授業を磨き合う教師の学びのネットワークづくり

WG3. 「学校」改革

<テーマ>

様々な教育資源（地域や大学・企業の外部人材、中学校区のつながり等）を生かした学校づくり

【子ども改革グループ】

「主体的に学び合う

長浜の子ども」

教師が教える授業から
子どもが学ぶ・考える授業へ

教師が子どもにいかに関心や技能を教え込むかではなく、子どもがいかに関心や技能、考え方を自分の力で学び取るかに力点を置いた授業づくりについて研究・提案・発信する。

【教師改革グループ】

「魅力ある長浜の教師」

魅力ある長浜の教師をめざすための研修・学びのネットワークづくり

今日的な教育課題や実践的指導力の向上等、社会の変化に適切に対応できる質の高い教師（魅力ある長浜の教師）をめざすための研修・学びのネットワークづくりについて企画・提案する。

【学校改革グループ】

「つながり合い高め合う

長浜の学校」

教員間、学校間の情報交換・情報共有の仕組みづくり
（教員・学校の見える化）

各学校の特色ある取組等が見える化し、市内で共有することにより、教育の質の向上を図る。



PDCAサイクルを活用した市の学力向上マネジメント

1 学力向上マネジメントを通して、学校力を高める

	国・県の事業	市の事業	P
4月	全国学力・学習状況調査	草津市教育指針方針説明会 →本年度の市の学力目標の提示	
5月	学ぶ力向上A訪問	●第1回学力向上マネジメント会議 全国学力・学習状況調査問題の分析 結果分析の方法	D
6月			
7月			
8月		●第2回学力向上マネジメント会議 全国学力・学習状況調査結果とその分析共有 「我が校の学ぶ力向上策」の見直し ◎子どものつまずき発見・克服事業(中学2年生)	C
9月	学ぶ力向上策中間評価 学ぶ力向上B訪問	事前学習教材配付 市内共通テストの実施 個票を使つての個別学習懇談の実施 事後補充学習プリント取組(宿題・補習等)	A
10月		校内研究会 指定事業発表会	
11月	学びの基礎チャレンジ事業		
12月		●令和の四改革セミナー 次年度以降を見据えた教育情報の提供	C
1月	ガッテンプリントの取組	★読み解く力伝達研修会 ★ESD推進研修会	
2月	学ぶ力向上策最終評価	●第3回学力向上マネジメント会議 「我が校の学ぶ力向上策」の評価 次年度構想の作り方	P
3月	「春のとも」の取組		

草津市

小学校	14校
中学校	6校

市の学力目標

H26	今あるものを学校全体でやりきる
H27	課題の核心に迫る方策を見極める
H28	教師の授業力を高める
H29	授業改善
H30	「主体的な学び」のさらなる充実
R1	「授業観」の転換
R2	アクティブ・ラーナーを育てよう

学力向上マネジメント会議

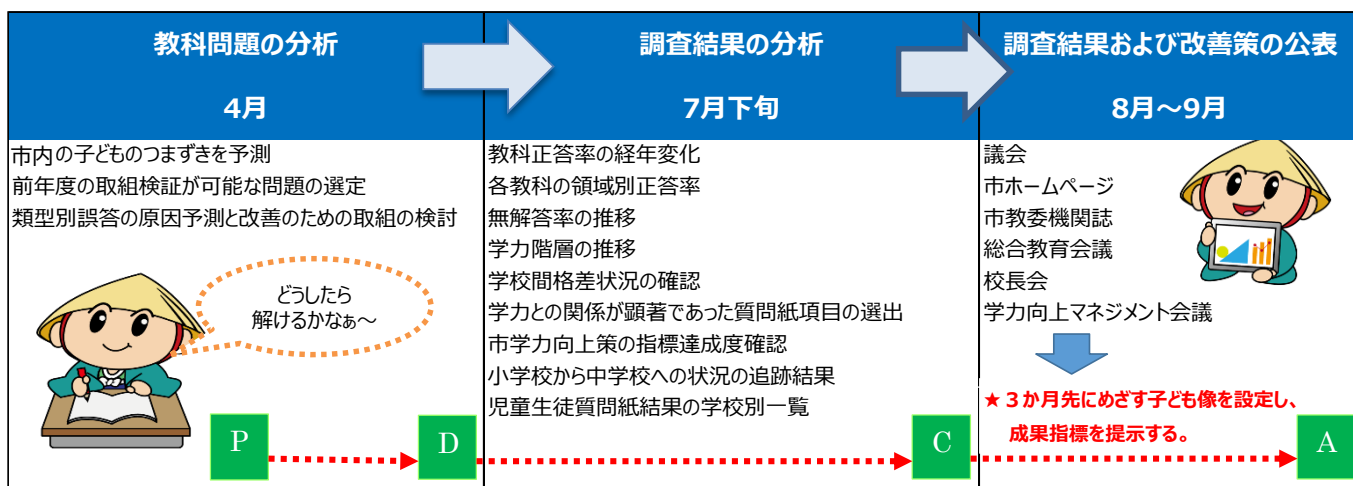
市内小中学校の学校力を高めることを目的とし、各校の学力推進リーダーが集まり、学力向上策の交流と推進を図り、より効果が期待できる学力向上マネジメントを実践している。年間3回の会議と1回程度の研修会を平成26年から実施している。(各回の主な内容は左表中に記載)

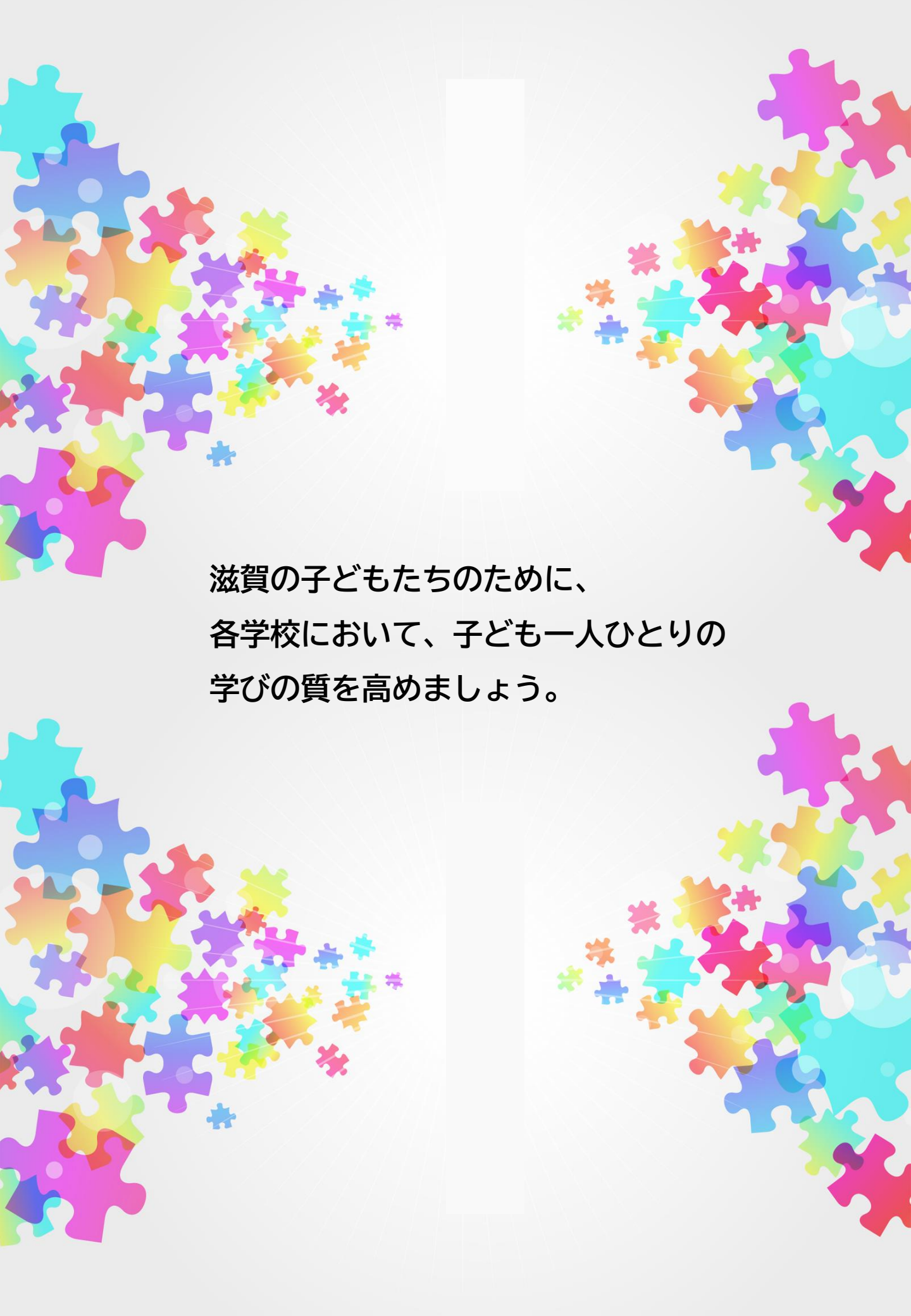
令和の四改革セミナー

市内の小中学校教員を対象に、次年度以降を見据えた教育情報の提供の場として、講師を招聘し、セミナーを開催している。

2 全国学力・学習状況調査の活用

市教育委員会事務局で作成した資料を提示する。各校は自校の結果を分析し、取組を改善していく。



The background of the page is white with a subtle, light gray grid pattern. In each of the four corners, there is a cluster of colorful puzzle pieces. The pieces are in various colors including red, orange, yellow, green, blue, and purple, and are arranged in a way that they appear to be floating or scattered. The central text is positioned in the middle of the page, between the top and bottom clusters of puzzle pieces.

滋賀の子どもたちのために、
各学校において、子ども一人ひとりの
学びの質を高めましょう。